

オランダは BPA の科学に耳を傾けています



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2018 年 5 月 22 日(火)

私たちは信頼できる情報筋からの情報で、BPA が安全であることを知っています。例えば、米国食品医薬品局(FDA)は、ウェブサイト上で質問に対して答えています。「[BPA は安全ですか? はい。](#)」そして米国だけではなく、世界中の他の多くの[政府当局](#)は、BPA の安全性について同様のことを述べています。

私たちが知りたい、或いは知る必要があるのは安全に関する結論だけかもしれませんが、しかし、知的探求心は、誰がそう言っているのかだけでなく、BPA が安全であることをどのように知っているか疑問に思うかもしれません。特に、どのような科学的データがこれらの結論を支持しているかを知りたいと思うでしょう。

非常に重要なタイプのデータは、曝露科学分野のデータです。とある化学物質が安全かどうかについて知りたければ、どれくらい曝露されているかを知る必要があります。結局のところ、私たちは何かの化学物質を過度に摂取することによって害を受ける可能性があります。基本的な科学的原則は、「[毒か薬かは用量次第](#)」と一般的に言われていて、この事は何世紀にもわたって知られています。

幸い私たちは、BPA にどれだけ曝露していて、BPA の曝露源がどこなのかをかなり知っています。オランダ国立公衆衛生環境研究所([RIVM](#))が最近発表した「オランダに於ける食事起源のビスフェノール A 曝露」と言うタイトルの[報告書](#)がその良い例です。

既往の解析結果から、私たちは BPA 曝露の主原因は食事由来であることを認識しています。その理由の一つは、金属缶の腐食および内容物汚染を防止するために、多くの飲食料缶にエポキシ樹脂ベースの保護コーティングを施されている事です。コーティング中のごく微量の残留 BPA が食品または飲料に移行すると、BPA 曝露が起こります。

RIVM の科学者が行ったことは、様々な食品中の BPA 実測値とオランダの食物消費パターンから BPA 曝露を計算したことです。RIVM の [報告書](#) では、2 歳から 6 歳の幼い子供、7 歳から 69 歳の大人と子供、および妊娠可能な年齢の女性(18 歳から 45 歳)の 3 つのグループに対する結果が詳細に記載されています。

他国の曝露推定値と矛盾する事なく、オランダ国民に対する BPA の曝露推定量はかなり低いものです。RIVM の科学者らは、この曝露レベルが何を意味するのかを解釈し、以下のような結論を下しています。「**曝露推定値は、食品由来の BPA 曝露による健康への影響は無視できる程度であることを示しています。**」

曝露推定値は全て、欧州食品安全機関(EFSA)が設定した BPA の安全摂取レベルや、米国および世界各国が適用している基準を大幅に下回っていました。RIVM の科学者らはさらに、「**不確実性があるため保守的な数値を採用しているので、おそらくは曝露を過大評価している可能性が高い。**」と指摘しています。これは安全性の包括的結論の信頼性を高める重要なポイントです。

EFSA による BPA の安全摂取レベルは、BPA に関して利用可能な科学的データを徹底的にレビューした後、2015 年に策定されました。当時入手できなかったデータは、BPA の安全性に関して残されている不確実性を解決するために FDA の上級科学者が実施した [CLARITY Core Study](#) の結果でした。

この研究結果は、BPA に関する前例のない規模と範囲で行われ、研究資金を拠出した米国国家毒物プログラム(NTP)が最近公表したものです。[研究報告書](#)ドラフトの結論に述べられているように、「**BPA はバックグラウンドと区別可能な最小限の影響が認められました。**」 全体的に、報告書の結果は、ヒトが一生 BPA に曝露されても健康影響を引き起こす可能性がほとんどないことを示しています。

EFSA は未だ安全性評価に CLARITY Study の研究結果を組み入れていませんが、FDA は既に研究結果を考慮し始めています。この報告書と共に発表された[声明](#)では、米国食品医薬品局(FDA)食品獣医学副局長 Stephen Ostroff 博士は次のように述べています。

「我々の初期レビューでは、現在認可された BPA 使用法は引き続き消費者にとって安全です。」

現在、利用可能な CLARITY Core Study の研究成果を利用して、オランダは BPA に関する科学に耳を傾けるのが賢明です。